

ピアノ・英会話スクール

ZOEZOE



成長を求め、挑戦を楽しめる人間へ

自分で学ぶ 自分で創る

英語とピアノの学びを通して子どもたちの「成長型マインドセット」を育てる場所



能力

努力によって変えられる

×決まっているため変えられない



チャレンジ

成長の機会としてワクワクする

×失敗を恐れて避けようとする



努力

必須。誰しものが必要

×必要ない。才能ない人がやること



フィードバック
批判

学びの機会として聞き入れる

×個人への攻撃と捉えて保守的になる



失敗

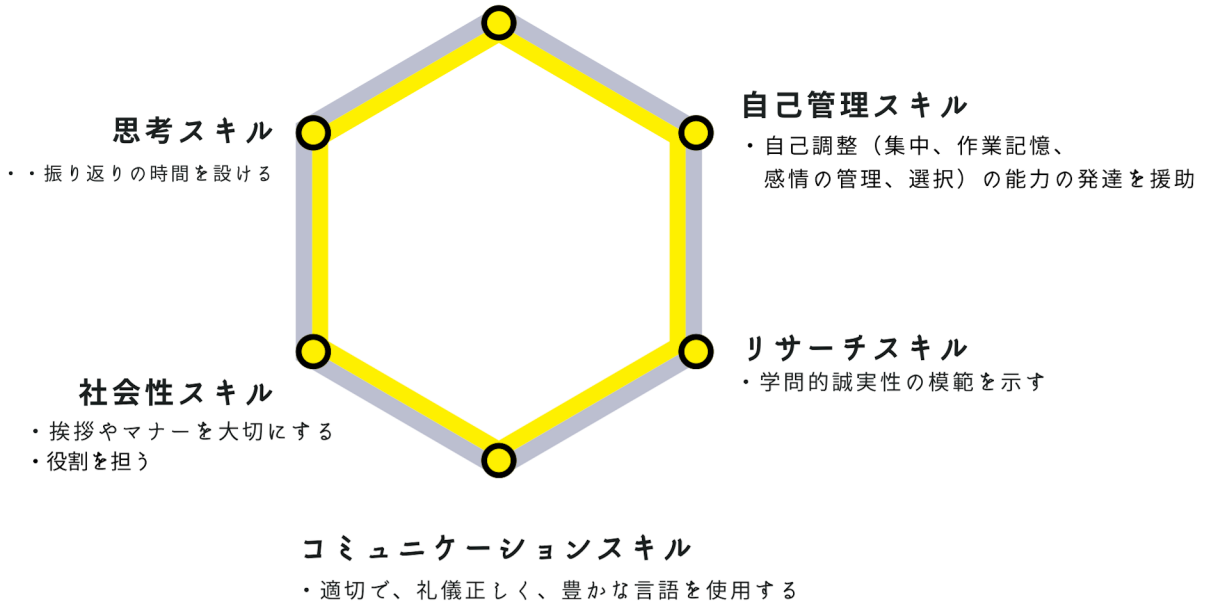
自らを振り返る。
次の挑戦に繋げる学びのポイント

×周りのせいにする。諦めることを考えるポイント

- 探求する人
- 知識のある人
- 考える人
- コミュニケーションができる人
- 信念を持つ人
- 心を開く人
- 思いやるのある人
- 挑戦する人
- バランスの取れた人
- 振り返りができる人

ZOEZOEで育む 知識と学びのスキル

英語とピアノ

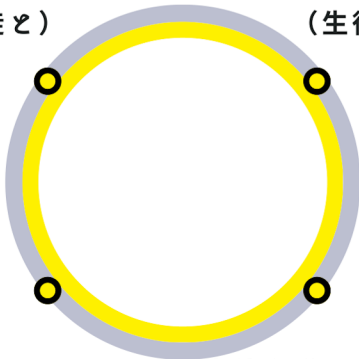


KNOWLEDGE, COMMUNICATION, RESEARCH,
SELF-MANAGEMENT, SOCIAL, AND THINKING SKILLS

行動 ACTION

振り返り REFLECTION

教師が指導する行動
(生徒と)



教師が始める協働
(生徒と)

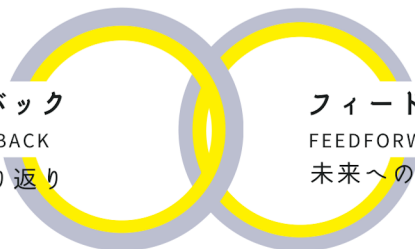
生徒が始める協働
(教師とコミュニティと)

生徒主導の行動
(各自、もしくは他生徒と)

「まだ」という力

THE POWER OF "YET"

フィードバック
FEEDBACK
過去の振り返り



フィードフォワード
FEEDFORWARD
未来への取り組み

子どもの発達段階や気質に合わせた5つのツール

1 問題を避ける

問題が起きてるのに対応しないと
いう意味ではなく、問題を未然に防ぐ

- ・状況を変える
- ・子どものストレスを減らす

2 良い行動を見つけ出す

良い行動に気づくことで、その行動を
増やす

- ・注目する
- ・具体的に褒める

3 感情を認める

感情に良いも悪いもありません。爆発さ
せないためにも小出しにする必要があり
ます。

- ・状況を変える
- ・子どものストレスを減らす

4 限度を設ける

身体的境界線と心理的境界線を学ぶ。適
度な制限を示すことで子どもはのびのび
成長する。

- ・明確なルールを定める
- ・ルールを破った際の結果を引き受けさせる

5 新しいスキルを教える

子どもは単に対処法を知らないだ
け。社会でうまく生きていくために
必要なスキルを教える。

- ・具体化する
- ・正しくやり直させる

自ら育つ存在、そしてその
自立する力を引き出す

スター・ペアレンティング

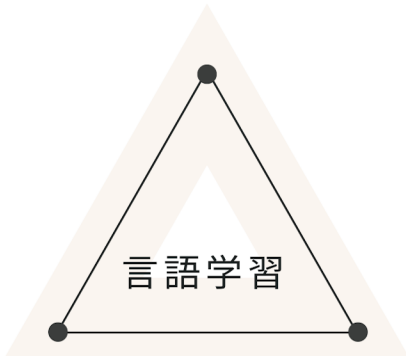
STAR PARENTING

英語 ENGLISH

ピアノ PIANO

言葉を学ぶ

例) 新しい言葉を学ぶ



英語で学ぶ

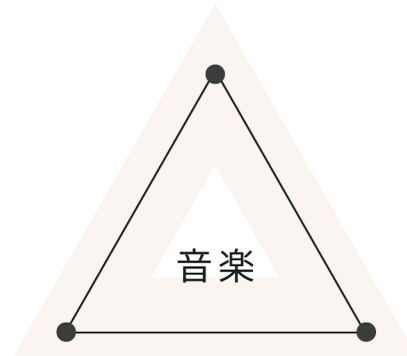
例) 情報を得るため
に文章を読む

言葉について学ぶ

例) 言葉の綴りを学ん
だり、文章をかく

- ・視覚的教材
- ・教師による問いかけ
- ・グループワーク
- ・発表
- ・段階的学習

発表



知識・教養

演奏スキル

- ・音楽理論や歴史
- ・他文化との触れ合い
- ・練習
- ・グループワーク
- ・発表
- ・アプリ

卒業生インタビュー

AYANA HARADA

原田 礼奈



私は正直なところ高校までの教育で役に立ったなと思うことはあまりありません。一方で、我が家での「分からない所があればすぐに調べる」「分かるではなく出来る、解るまでする」という教育方針が私の知的好奇心を成長させてくれたと思うし、今の私にとても役に立っています。

「自ら考え行動し発信する」 グローバルな人材が育つ環境

国際教養大学（AIU）に入学して、日本と海外の教育の違いを感じる日々の中で、日本の教育は変わるべきだと強く思うようになりました。より生徒主体の授業をするべきではないでしょうか。グローバルな人というのは「自ら考え行動し発信する」事ができる人で、教師による一方的な授業で世界に通用する人材を育てられるわけではないと思います。

例えば、AIUでは先生から提示されたテーマで生徒達が興味のある動画を見つけそれについて生徒が授業する時間があります。スライドを1から作る、ディスカッションを行う、時間配分を考えるなど全て生徒が行います。授業することはとても大変ですが自分達の興味ある分野を調べることができるので知的好奇心を満たす事ができます。

また、自分の好きなことを追求できる（リベラルアーツ）、そのサポートしてくれることも生徒の主体的学習を育むと思います。日本の高校、大学とは違い全ての授業が少人数制で行われるので先生と密な会話を行うことができ、ディスカッション中心の授業なので自分にはない視点に気付かされることが多々あります。

コミュニケーションに欠かせないアサーション（互いの価値観を尊重しつつ、自分の意見を明確な言葉にする）スキルを身につけることにも繋がるし、本当にディスカッションが楽しいです。

LIFELONG LEARNER 生涯学習者を育てる

大学卒業後、社会人になったとしても「学び」は続きます。なので固定概念に囚われず自由に学ぶ事が良いと思います。しかし、日本の教育は自由に学ぶことを制限しているような感じがするし、現在行っている教育は暗記が全て、受験のためだと思っている人々が多いのではないのでしょうか。そうなる则ち本来の勉強の楽しさに気づかず、テストの点数を取るためだけが目標の勉強になります。そういうものなのでしょうか。

日本の学校教育が変わるには時間がかかるかと思いますが、個人や各家庭で出来る取り組みはあると思います。生徒ができることとしては「視点を変えて考えてみる」ことだと思います。少し考え方を考えるだけで多くのことに気づく事ができます。例えば、英語を科目としてではなくコミュニケーションの道具として考えるだけでも色々なことが多く変わってくると思います。

家庭でできることとしては「なぜ?」「分かんない」をそのままにさせて置かないことだと思います。私は小さい頃から「なんで?」と疑問を持つ子でした。そんな両親は答えをすぐに教えずにまずは私に考えさせる。そして答えを教える、または自分で調べさせるという事をさせていました。どんな小さな疑問にも向き合う家庭が子供の将来を無限に広げられると思います。

日本の英語教育

私が高校まで受けてきた受験英語は日常生活ではある程度通じると思っています。一方で、学校での講義や世界で働くとなると通じないです。自分の意見を英語で伝える教育をしていないからです。また、英語を教科として勉強していることも原因だと思います。英語が第一言語ではない欧米諸国などは英語をコミュニケーションの一つとして学んでいるので流暢に話せる人が多いです。英語との向き合い方次第で英語力というのは伸びると信じています。

英語を教科としてではなく、コミュニケーションの道具として学ぶには目標を決めると良いと思います。

例えば、インターナショナルな友達を作るなど目標を決めると教科としての英語ではなくコミュニケーションの道具として英語を学べると思います。

私の友人は好きな外国の俳優が出演しているドラマを英語のままで見るといふ夢のために英語を頑張っていました。英語が得意ではない友人でしたが、自分の目標のために努力し、今では英語での日常会話はスムーズに行えます。またTED TALKをシャドイングするのも1つの学習方法です。シャドイングすることで正しい発音を身につけることができるようになるし、正しい発音ができるようになると自然とリスニング力も上がってきます。英語は数学や理科などとは違い教科書をずっと読むよりも話すなどの実践をすることが重要です。

私のクラスは私以外海外居住経験がありません。みんな「純ジャパ」です。高校も普通科を卒業した人ばかりです。国際系の高校を卒業したのは数人しかいません。学年規模でみると海外経験があるのは1割未満です。皆バックグラウンドが異なっていますが、共通するのは幼少期から何かしら英語に触れていたことです。例えば、私の友達は「ABC」の歌や英語版のアニメなどを家庭で取り入れてた様です。幼少期から触れるという経験は英語に対するハードルを低くすると思います。

これからの世界を考えて

今の世界情勢から考えると、これから世界はより協力していかなければならないのは明らかだと思います。今は国という単位で協力する傾向が強いですが、企業という単位で協力するのが当たり前になる未来があると私は考えます。「日本から出ないから今のままでいい」という考えは通用しないです。

「英語を話せるようにしろ」と私は思っていません。それよりも「固定概念に囚われず柔軟に」「自ら考え行動し発信する」グローバル力を培うべきだと思います。変わることを怖がるのではなく、楽しめる力がこれからさらに重要になるのではないのでしょうか。



生徒・保護者インタビュー VOL.1

自身の演奏を分析しながら、
自分で練習プランを組み立てていく日々

HONOKA

ゾエゾエ：ホノカ、今日も頑張ってピアノ演奏してたよね。

ピアノはどんなところが好き？

ほのか：（少し考えて）ピアノ弾くの、、、楽しい。

ゾ：そかそか。大変な時もあると思うんだけど、どう？

ほ：（また少し考えて）、、、楽しい。

ゾ：（笑い堪えながら）そかそか。楽譜を読むのは面白いよね。

ほ：頷く

ゾ：今回の発表会の演奏曲はどうやって決めたの？

ほ：曲を聴いてから決めた。

ゾ：そかそか。発表会に向けてどんな気持ち？

ほ：楽しい気持ち。

ほのか・母：いつもはもっと喋るんですが。笑

練習の仕方とかも自分でしっかり考えてやってるんで、もっと言えばいいのに。

ゾ：めっちゃ知りたいです。ちなみにどんな風に練習されてるんですか？

母：今はもう全く1人で練習しています。

ゾ：私いつも小1だと勘違いしちゃうんですが、年長さんなんですよね。

母：ピアノに関しては、自分の中で、どうやったらうまくいくのかみたいなのが、今までの経験でもう分かっているみたいで。まず最初に楽譜と向き合って、音読みして、一通り読んだ後に、音源無しで自分で弾いてみる。いけるってなったら音源流して弾く。音楽についていけなかったら、音源無しで弾いてまた繰り返すっていうのを自分で判断して進めます。私は、なんかこう、メリハリじゃないですけど、必要かかっていう時だけ、同じ部屋に入って聴いています。

ゾ：雰囲氣的に判断してですよ。

母：後は、楽譜に書いてある英語の指示的なことが分からなかったら、自分から「これ何ー？」と聞きに来るので、私は調べて、「あ、こういう意味だよ」と伝える。1人で結構喋りながら練習していますね。

「ついていけない。どうしよう、どうしよう。うん、まあ、練習するしかないわ」とか、「いや、これ音なしで、何回か弾くしかない」とか言って、解決して進める。

ゾ：自分で組み立ててその練習ってすごいですよね。

母：そうなんです。私もちょっとびっくりしてるんです。

ゾ：1回で大体何分くらい練習していますか？

母：最近はまだ発表会があるっていうのがあるので、もう1時間半とか。

ゾ：良いですね〜。

母：5曲演奏したいから、ちょっとでも弾かないと自分で分かんなくなるみたいで。

なので、自分で決めて、1曲10回ずつ弾く。納得いった分10回。それを自分で弾いて、「10回弾いたよ。次行くね。」って言いにくる。

ゾ：報告がくるわけですね。笑

母：そうなんです。最近はレイト（弟）の練習も見てくれて、「音ズレてるよ」とか私より厳しいんです。「曲に遅れてた。もう1回」とか。音に合わせて声かけてあげてみたいんです。

ゾ：厳しい（笑）人に伝えられるってことは、自分で理解してるってことですね。演奏に対しての分析と対策ができて。1人で組み立てて練習できるってことはそういうことですよ。私、彼女とのレッスン後に、あれちょっと言い過ぎたかなー。とか思う時あるんですよ。でも、次のレッスンまでに上達してきますよね。あの強さ。

成長の機会としてフィードバックを受け取る強さ どうしてなのかとロジカルに説明することの大切さ

母：言ってもらえる方が、彼女にとっては良いみたいで、どういう方向に進んでいけばいいのかっていうのが、レッスンに来てははっきりするみたいです。次の課題はこれっていうのをもらえるから、一気にやる気が増す。「ここやってほしいんだ」とか、「あ、自分が今やってる練習あってるんだ」みたいのがレッスンで確認できるので、それがなんか良いアクセントでメリハリになってるっていう。本人が意識してるのかは分かりませんが、レッスン後に聴いてると。あ、音の感じからなんか気合い入ったなってこっち側から思います。

ゾ：えー、それは本当よかったです。あれですよ、最初に彼女のスイッチが入ったきっかけが、発表会でしたよね。赤坂のバックステージで開催した。

母：そうです。で、あの時、いろんな楽器を聴いたり、あと、年上の小学生の演奏を聴いてから、自分もやりたい！って気合いが入りましたね。

ゾ：お母様が特に意識してることっていうのは、やっぱり邪魔しないとか、雰囲気的に判断して、今ここ言った方がいいなっていう彼女のモチベーションを見てってことでしょうか。

母：そうですね。別の部屋で練習はやってるんですけど、聴いて欲しいみたいで、ドアは開ければなしです。

こういうのやった方がいいんじゃない？っていうのをちょっと声かけると、それはそれで嬉しいじゃないですけど、受け入れてます。

ゾ：彼女のフィードバックの受け入れ方が常にすごいんですよ。成長の機会として受け入れる。まさに成長型マインドセット。クラス中もバランスが絶妙ですよ。

母：そうですね。、周りに気を取られすぎず、でも別に無関心なわけでもない。なんか一緒にやってるお友達に対して関心もありつつ、うん、でもなんか自分がやるべきことは、うん、なんかこっち。みたいなのははっきりしてるところがありますね。

ゾ：生まれつきの気質もあると思うんですけど、私は、以前伺ったお母様の接し方がとても印象深かったです。子どものものは一切片付けないっていう。

母：おもちゃとか、今は洋服とかもそうですけど、散らばってようが私は知らない。だから寝るとき、ご飯食べる時、出かけるときに床にあったら捨てるね。って伝えて徹底してます。物心つくちょっと前、なんならちょっと物が持てる様になった頃から始めてるので、私がやらないのが当たり前の環境です。

ゾ：床にあったら捨てるよって伝えて、それを実行するわけですよ。

：そうです。もう捨てようとして、いやーって、なんかぎゃーってなっても、決めたよね。それがルールだからって伝えたよねって捨てます。今も、自分のものは全部自分で準備する。保育園に行く時もですね。レイトが出来ない時は、ホノカがやる。それは私の域ではなく、子どもたちの世界でお互い助け合って進めてもらいます。

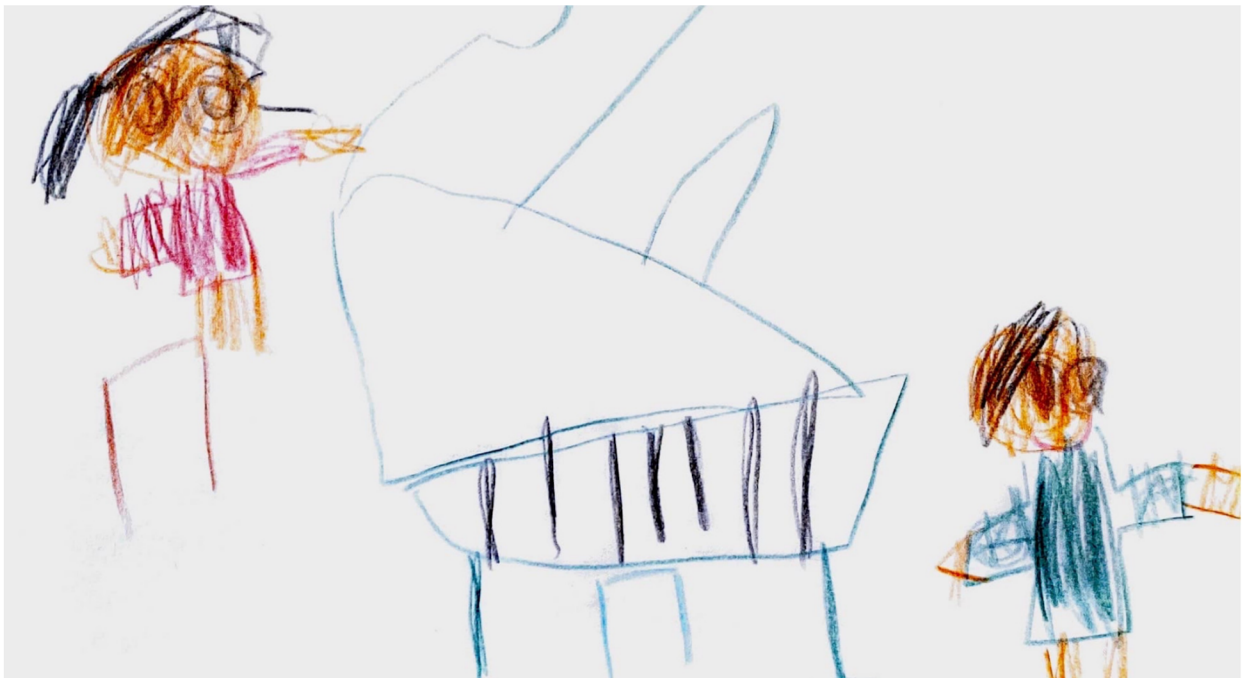
ゾ：子どもには子どもの世界がありますもんね。

母：私が仕事しないとおもちゃ買えない、ご飯を食べれないっていうの分かっているの、朝ごちやごちやってなるとちょっと出るの遅くなったら、いや、仕事遅れたらお金もらえないんだよって話をして、なんで遅れちゃダメなのかっていう説明をして、だから準備早くしなきゃいけないんだよ。自分たちの都合で動いたら、私が仕事に遅れるんだよっていうのを丁寧に説明してます。

ゾ：そういう時って、絶対イラっとくる時もあると思うんですけど、出来るだけ我慢して普通にお話してるんですよ。

母：そうですね。感情的になってしまうと説明が入っていかないのでですね。

ゾ：とても勉強になりました。ありがとうございました。



生徒・保護者インタビュー VOL.2

程よい量を設定することが
継続していく上で大切

SOMA



ZOEZOE：英語とピアノはどんなところが楽しい？

Soma：英語は、読み書きができるようになることと、ピアノは難しい曲に挑戦できること。

Z：いつの間にかめっちゃ進んでるみたいに思ってたんだけど、いつスイッチ入れたの？

Soma・母：夏休みの間に学校の書く宿題を1日、2日ぐらいいでも全部終わらせてしまったので、せっかくだから英語の（紙の）ワークブックやろうかって話になって。ユニットを終わらせるごとの達成感があるみたいです。

Z：いつワークブックするとか、いつタブレットやるとかってのは、決めてたりする？

S：ワークブックは1日1ページしてて、タブレットは週2回してる

母：せっかく買ったんだったらやろうよって感じで。でも、何ページもするのは、やっぱり、学校の宿題もあって大変なので。

S：クロスワードパズルが楽しい。

Z：スケジュールの相談とかってというのが、すごく自然に行われてますよね

母：そうですね。やっぱ負担になると、もうやりたくないってなるので、1日できる範囲でというか。1ページやろうかって最初は言った時は、なんかうーんという感じであまり乗り気ではなかったんですけどやってみると意外とあっさり終わってしまうので、なんかそれだったらできそうっていう風になりました。

習慣が小さな自信につながっていく

Z：小学生になったら、できるだけ子供の判断に任せたいっていうお話を以前されてましたよね。すごく印象的でした。お子様の頑張る姿はお母様にどんな風に映ってますか？

母：ピアノは以前からやりたいってずっと言ってたので、多分、弾けるようになるってというのが嬉しいって感じだと思うんですけど、英語は、最初は、ま、いや、別にやらなくてもいいって感じだったんですけど、フレーズをちょっと言えるようになったりとか、読めるようになったりとかってのが出てきて、少しづつやる気が出てきたりとかしてるのかなって感じですね。自分は英語が喋れるんだっていう、小さい自信に繋がってるようです。続けてよかったのかなって風には感じています。絵本の前書き部分を覚えて、学校の担任やALTの先生に披露して会話が広がってるみたいです。

S：Good Job Mr. Ide.って言われた。

Z：海外からの先生と会話ができたっていうことも嬉しかったんですね。

母：強制ではなく自分のペースでやってもらいたいっていうのもあるけど、1週間経つにつれて、今週は全然やってないっていう時は、「やりなさい」っていうよも、「今週は何弾くのー？」っていうぐらいの感じで声かけしています。

Z：習慣にすることが大事ですよ。

母：そうですね。知ってる単語とか文とかがちょっとずつ増えていって、それが自信に繋がるので、習慣的にやって良かったってことかなと思います。やっぱりしばらく離れるとあれ、なんだったっけ？という感じでストップしてしまったりするので。

S：お友達にも披露した。

Z母：笑

母：前は恥ずかしがってたけど、自信があることについては、もうどんどんアウトプットしたいみたいです。頑張りを褒められるのがモチベーションになってるっていうのもあるし。ピアノも練習にスイッチが入るとどんどん進もうってなって、3曲ぐらい進めちゃうみたい。

クラスの練習時間に先生とやるって決めた曲が、いい感じって言われて、なんか、じゃ、次いこってあるじゃないですか。もうここまでやっちゃったから、もっと次やろう的な声かけが、進んでいくモチベーションになってるみたいです。最初の頃のブックABの時は1曲ずつ進めてたけど、ちょっと指が動き出すようになってからは、譜面を読んで、音楽聞いて、あ、こういう曲かって自分でやっています。

Z：英語のオンラインクラスも張り切ってますもんね。

母：15分っていうサクッと終わるところが続けやすくもあるみたいです。

Z：ぜひこれからも一緒に頑張っていきたいと思います

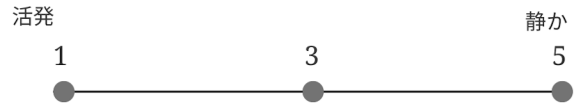


気質の特徴

お子様のことをどのように感じますか？

1. 活発さの度合い

遊んでいる時、食べている時、本を読んであげているときにどのくらい動き回りますか？



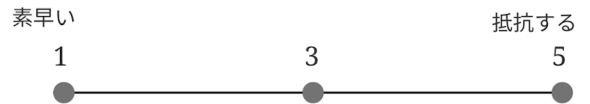
2. 規則性

食事時間、寝る時間、睡眠時間や排便などは規則的ですか？



3. 適応性

予定や日課の変更、新しい場所や食べ物にどのくらい速く適応しますか？



4. 打ち解けやすさ

初対面の人や新しい食べ物、おもちゃ、活動などにどのように反応しますか？



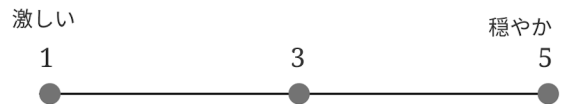
5. 知覚認識

光・音・温度・痛み・味・匂い・接触（布や物）などの変化にどれほど敏感に反応しますか？



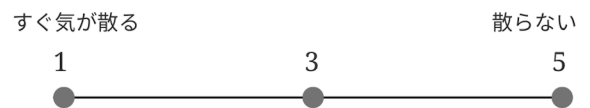
6. 感情の激しさ

喜怒哀楽を表現するのにどのくらいエネルギーを使いますか？



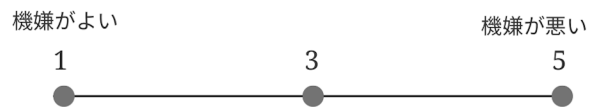
7. 散漫

すぐに気が散る方ですか？
邪魔されても気にならない方ですか？
何か物音がしても、他の子どもたちがいても、自分のしている遊びや勉強などをやり続けますか？



8. 機嫌

普段どんな機嫌のことが多いですか？
機嫌よく、楽しくしている時と、泣いたり、ぐずぐずしたりするときの割合はどうですか？



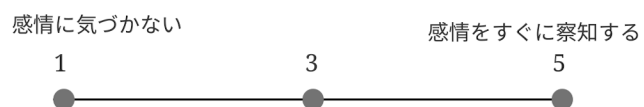
9. 粘り強さ

一つの活動をどのくらい続けますか？
難しくてもそれを続けることができますか？
頼まれれば止めることができますか？



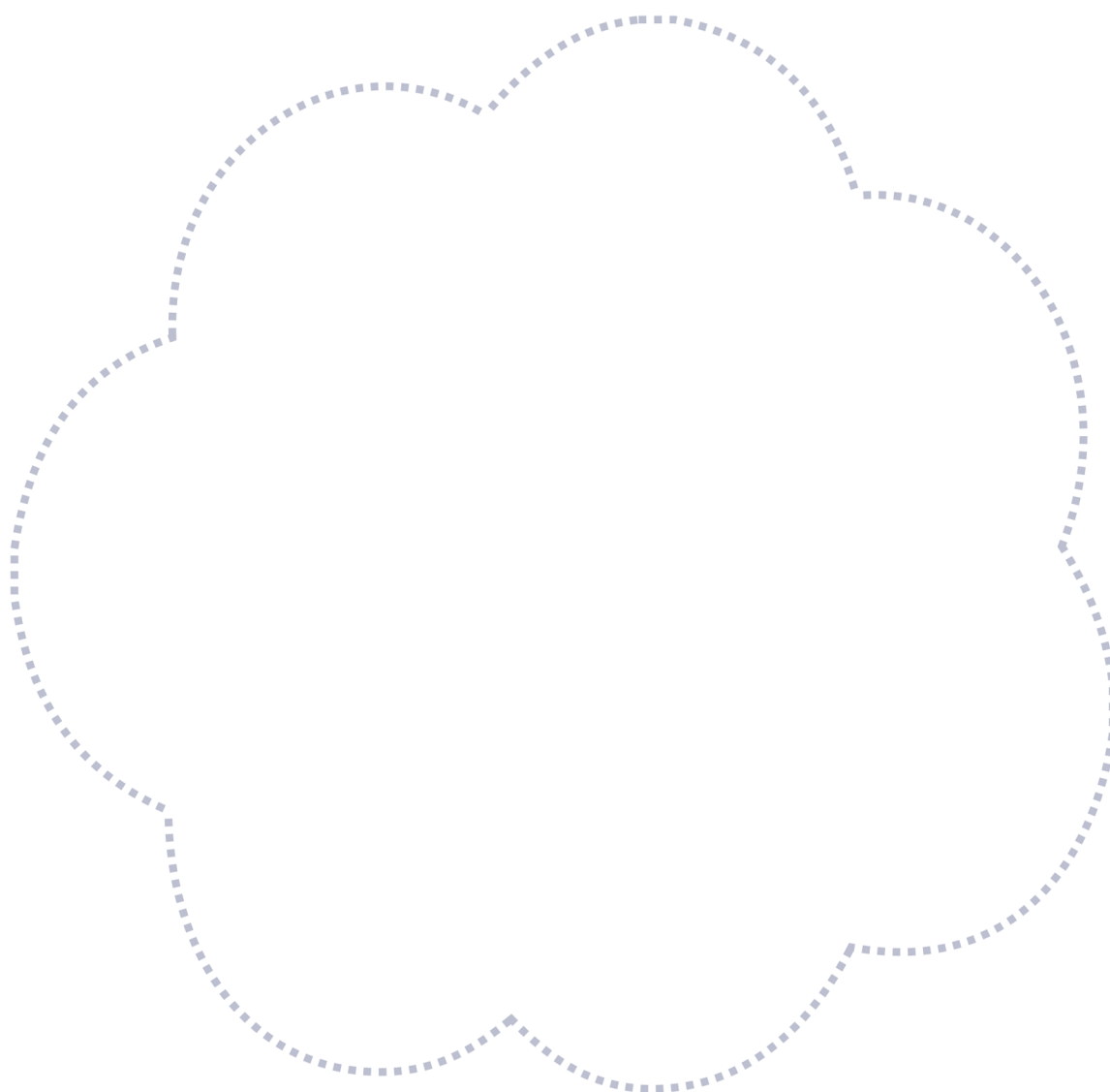
10. 感情面の結びつき

他人の感情をどのくらい理解しようとしていますか？
他人の感情にどのくらい影響されますか？



子どもが大きくなったら どんなふうになって欲しいですか？

具体的に書き出してみましょう



ピアノ・英会話スクール

ZOEZOE

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-29 畑添ビル 203

[HTTPS://WWW.ZOEZOE-PIANOIKAIWA.COM](https://www.zoezoe-pianoaikaiwa.com)



入会申込フォームはこちらです